

様式第5号

出張調査報告書

平成24年8月31日

松伏町議会議長 渡辺忠夫様

会派名 公明党

代表者氏名 佐々木 ひろ子



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成24年 8月 6日から平成24年 8月 7日
2 視 察 地	(1) 新潟県三条市 (2) 新潟県長岡市 (3) 群馬県太田市
3 視 察 目 的	(1) 「子ども・若者総合サポートシステム～三条システム～について」 (2) 「“行きたくなる市役所”事業について」 (3) 「おおたメガソーラー事業について」
4 視 察 者 氏 名	佐々木 ひろ子 川上 力
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

◎新潟県 三条市
「子ども・若者総合サポートシステム～三条システム～について」

「子どもサポート」が好評／障がい児や不登校など 関係機関の連携強化／新潟・三条市
(公明新聞 7/3付)

新潟県三条市が2009年度から実施している、「子ども・若者総合サポートシステム」が、多くの団体の視察を受けるなど注目を集めている。同システムは、障がいや虐待、不登校など、支援が必要な子どもや若者を継続してサポートする仕組み。

同市は08年、社会福祉課にあった「子育て支援室」を、教育委員会に移して「子育て支援課」を設置。これにより子どもに関する窓口が一つになったほか、同課と学校教育課を隣接させ、子どもの支援に関する連携を容易にした。

同システムでは、子育て支援課が軸となって、児童相談所など多くの関係機関と連携して支援体制を構築。支援に必要な情報は保護者の同意を得て「支援台帳」に登録し、関係機関が共有する。これにより、小学校入学の際、保育所で行われていた支援の引き継ぎなどが可能になり、子どもや保護者に安心感を与えていた。

さらに、“中学を卒業すると支援が減る”という問題点を踏まえ、同システムは35歳までを対象にし、引きこもりなどにも対応。学校卒業者に対しては就労支援を中心にサポートしている。

同課の久住とも子課長は「『(各課の) 横の連携が必要』とよく言われるのは、それが難しいからだ。(教育委員会に『子育て支援課』という) 組織ができたからこそ、このシステムを実現できた」と話していた。

公明党の野崎正志、笹川信子の両市議は、予算要望や議会質問で同システムの推進を訴えてきた。

同システムについては、4月に発行された『子ども・若者総合サポートシステム～三条システムとは～』(古川聖登著、ジアース教育新社)に詳しく書かれている。著者は文部科学省から同市に出向し、教育委員会教育部長として同システムの構築に取り組んだ。

以上

◎ 新潟県 長岡市 「“行きたくなる市役所”事業について」
“行きたくなる市役所”と好評／屋内競技場や広場を併設／1階に市議会 使いやすい「総合窓口」も／4月オープンの「アオーレ長岡」（公明新聞 6/29付）

アリーナ（屋内競技場）、屋根付き広場、市役所が一体となった全国初の施設「シティホールプラザ アオーレ長岡」（新潟県長岡市）が、4月のオープン以来、視察団体や多くの市民でにぎわっている。「アオーレ」は長岡弁の「会おーれ」で「会いましょう」という意味。建物が新しくなっただけでなく、便利な「総合窓口」など新しいサービスも開始。“行きたくなる市役所”に生まれ変わった。

◇

アオーレは、JR長岡駅とスカイデッキで直結。屋根付き広場と、それを囲む形で配置したアリーナ（5000人収容）、4階建ての東棟・西棟、地下駐車場からなる。建築家の隈研吾氏が「市民生活と一体化した市役所」をめざして設計した。

目を引くのは「ナカドマ（中土間）」と名付けられた屋根付き広場。舞台や大型ビジョンがあり、ミニライブ、展示会、結婚式などが行える。テーブルやいすも用意され、市民が自由に利用できる。「ナカドマ」について、同市青葉台町内会長の水城勇一郎さんは「前の市役所は、あまり行きにくかった。このアオーレはすごい。オープンな空間がいい。気軽に自由に来れる」と評価。細貝たき子さんは「用事をした後、休憩したりできるのがいい」と話していた。

ナカドマに面する西棟1階には市議会の議場がある。北側と東側の一部はガラス張りで、「市民に開かれた議場」になっている。また、議員と市幹部が向かい合って質疑する対面型のレイアウトを採用。傍聴席には防音機能を持つ「親子室」を設置した。

東棟1階には、「より便利な市役所」を実現する「総合窓口」を開設。証明書発行、申請・届け出、収納・支払い、福祉・市営住宅相談など、市民が利用する窓口を集約した。以前の窓口は各課別の“縦割り型”だったが、市民に分かりやすい“目的別カウンター”に変更。「健康保険・年金窓口」「福祉窓口」などとした。総合窓口は、平日は午前8時30分から午後8時まで、土日・祝日も午前9時から午後5時まで開いている。

このほか、障がい者の社会参加・自立を支援するため、障がい者団体が運営するカフェを西棟1階に設置し、飲み物のほか、各施設で製造したパンや菓子などを提供。施設使用料・光熱水費は免除されている。現在の営業時間は平日の午前11時30分から午後1時30分まで。さらに四つの市民交流ホール、市民協働センター、コンビニなどがある。

アオーレは環境にも配慮し、(1)長岡産の天然ガスで熱と電気を供給(2)雨水・融雪水のトイレ洗浄などへの利用(3)太陽光発電(4)屋上緑化——などを導入。二酸化炭素削減量は年間約1050トン(一般家庭220世帯分)に上る。

以前の市役所庁舎はJR長岡駅から2キロ以上離れた場所にあり、耐震性も低かった。そこで、同駅前にあった市厚生会館(ホール兼体育館)の跡地に、アオーレを新築。中心市街地活性化の効果も期待されている。建設費には、住民参加型市場公募地方債で募った市民からの資金も充てた。

市議会公明党の山田保一郎、藤井達徳、中村耕一の各議員は、アオーレ建設に当たり数々の提案・主張を展開。議場を1階に置くことや対面型にすること、障がい者の自立支援の場の設置、環境への配慮、公募債の活用などが実現した。

太田市メガソーラー事業を視察

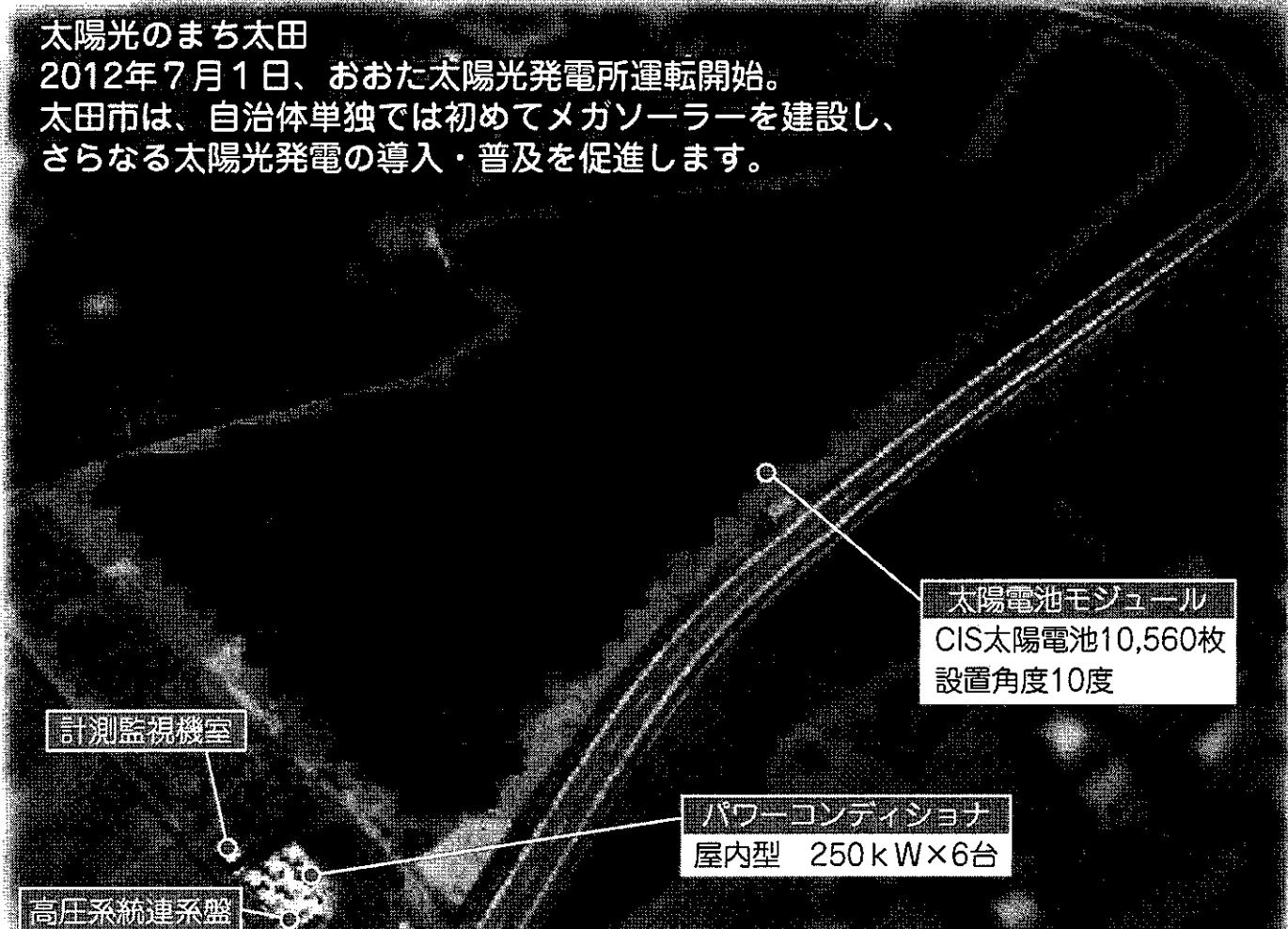
太田市は2012年7月1日より発電運転を開始した。10,560枚の太陽電池パネルを設置し、年間163万キロワットアワーの電力を作り出す。世帯にすると400～450世帯分と言われている。自然エネルギーの活用は、今後の町の課題でもある。ホームページより「おおた太陽光発電所」のパンフレットを添付します。

おおた太陽光発電所全景

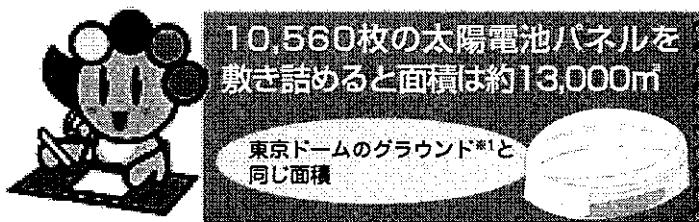
太陽光のまち太田

2012年7月1日、おおた太陽光発電所運転開始。

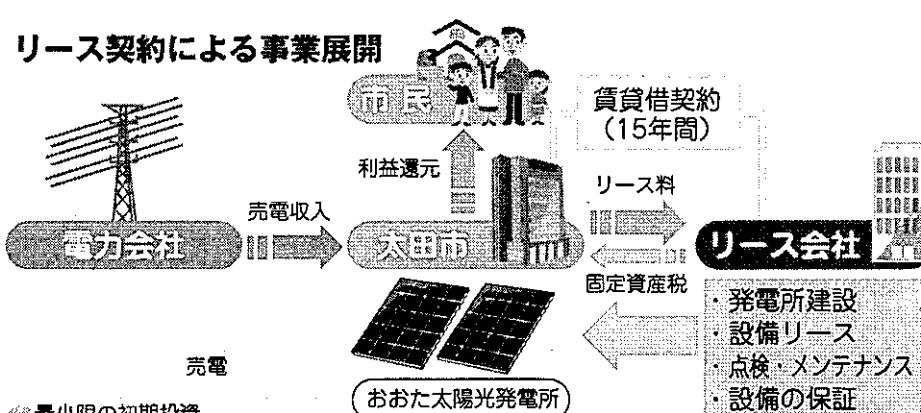
太田市は、自治体単独では初めてメガソーラーを建設し、さらなる太陽光発電の導入・普及を促進します。



おおたん太ビッグス



リース契約による事業展開



二酸化炭素(CO₂)の排出削減量は年間611トン^{*4}

杉の木43,643本分^{*5}

森林面積171ヘクタール分^{*6}
(東京ドーム37個分^{*7})

*1 *7 東京ドームグラウンド面積13,000m²、東京ドーム面積46,755m²（東京ドームシティ公式サイト「施設概要」より）

*2 一般家庭1軒あたりの月平均電力使用量を304.7kWh（年間3,656.4kWh）で算定（平成23年度数表で見る東京電力、一般家庭の電力需要（H22年度）値）

*3 平成22年度JPEA表示に関する業界自由化に基づき、石油の削減量を1kWhあたり0.227tとして算定

*4 平成22年度の電気事業者等の実績に基づく排出係数、東京電力0.375(kg-CO₂/kWh)により算定

*5 林野庁「地球温暖化防止のための緑の取組方針（H14）による50年のギリ1本あたり1年間に14kgのCO₂を吸収するとして算定

*6 [計算式]年間CO₂削減量(t-CO₂)=3.59(t-CO₂/ha)=森林換算面積[ha] 年間森林吸収量 3.57t-CO₂/ha (NEDO 2000年太陽光発電導入ガイドブックより)



市議団、町議団合同視察について

- ◆日程： 8月6日（月）から7日（火）の一泊二日
- ◆視察先 : (越谷 8:50発)

8/6（月）13:30-15:00

◎新潟県 三条市

「子ども・若者総合サポートシステム～三条システム～ について」

(長岡市 泊)

8/7（火）9:30-11:00

◎新潟県 長岡市

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/shisatsu-annai.html>

「“行きたくなる市役所” 事業について」

アリーナ（屋内競技場）、屋根付き広場、市役所が一体となった全国初の施設。
「シティホールプラザ アオーレ長岡」。建物が新しくなっただけでなく、
便利な「総合窓口」など新しいサービスも開始。

8/7（火）15:00-16:30

◎群馬県 太田市

「おおたメガソーラー事業について」

(越谷 18:28 着予定)